

## 大阪市イノベーション促進評議会 平成28年度第2回 会議録

- 1 日時 平成 29 年 3 月 21 日（火） 8:00～9:40
- 2 場所 大阪イノベーションハブ（WEB 会議）
- 3 出席者 松本委員長, 吉原委員  
事務局（吉川理事、高田部長、柳内課長、小林課長代理）

### ■議題

- ・平成 28 年度新規事業「O I Hシードアクセラレーションプログラム」の活動状況について
- ・平成 28 年度の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価について
- ・平成 25 年度～平成 28 年度の関西のイノベーションエコシステムの状況と今後の O I Hの活動の方向性について

### （事務局）

- ・それでは、定刻になりましたので、平成 2 8 年度第 2 回目大阪市イノベーション促進評議会を開催いたします。吉原委員、よろしいでしょうか。

### （吉原委員）

- ・よろしく申し上げます。

### （事務局）

- ・よろしくお願ひいたします。
- ・本日の議題ですが、三点ございます。資料とともに御確認をお願いいたします。  
まず、資料 1 で、平成 2 8 年度新規事業の O I Hシードアクセラレーションプログラムの活動状況と私どもの自己評価、評議会としての評価について、御意見をいただきます。  
次に、資料 2 で今年度の大阪イノベーションハブ O I Hの活動を中心とした活動の実績と私どもの自己評価、評議会としての評価案について、御意見をいただきます。こちらは資料 1 のシードアクセラレーションプログラム以外の実績と評価ということになります。  
そして、資料 3 になりますが、平成 2 5 年度の O I H開設から平成 2 8 年度の間の関西の

イノベーションエコシステムの構築状況と今後のOIHの役割について、委員の皆様にお世話になりましたこの4年間を振り返らせていただきたいと思います。

本日お示しいたします活動の実績は2月末現在のものです。

- ・後日、3月末の確定いたしました数値を記入し、本日の御意見を踏まえ、また、本日御欠席のお二方の委員の御意見もお伺いした上で、評価案の修正等を行い、委員の皆様へ送付させていただきます。御確認の上、疑義、もしくは追加等ございましたら、お願いいたします。
- ・その後、皆様からいただいた評価を松本委員長に取りまとめを行っていただき、最終的な評価を確定したいと思います。
- ・吉原委員、この点につきまして、委員長に御一任いただくことでよろしいでしょうか。

#### (吉原委員)

- ・はい。結構だと思います。

#### (事務局)

- ・はい。ありがとうございます。取りまとめた評価につきましては、5月中をめどに各委員の皆様へ書面にて御報告をいたします。よろしくをお願いいたします。

それでは、松本委員長へ進行をお願いいたします。

#### (松本委員長)

- ・松本でございます。よろしくお願いいたします。
- ・平成25年にこの大阪イノベーションハブという、全く当時としては本当に画期的なイノベーションの拠点づくりを大阪市さんがやられるということで、私自身はその前の企画段階からいろいろとかかわらせていただいておりますけれども、正式な開設からちょうど4年間ということで、全体の事業も非常に順調に進んでいるとともに、この評議会も委員の方々のいろいろな意見をいただいて、いい形になってきたんじゃないかなというふうに思っています。
- ・そういう中で、今回、課題の一つであるアクセラレーション機能、これについては新しい事業として今年度取り組まれておられまして、OIH シードアクセラレーションプログラム、これについての実績と評価、これを本日はまず報告していただいて、いろいろな意見をいた

だければと思っています。これが今日の議題の一つ目ということになります。

- ・その後、定例の今年度の評価ということになりますので、今年度の大阪イノベーションハブの活動全般について、いろいろ報告いただいて、それについての評価をいただきたいと思っています。

- ・最後に、4年、一応、振り返りまして、この4年間の関西の、大阪イノベーションハブを起点とした関西全体のイノベーションエコシステムの状況を振り返って、今後、関西、あるいは日本のイノベーションエコシステムの本格的な拠点として、この事業がどういう方向に進むべきか、ということ、総括的な立場での御意見を委員の方々に御意見をいただきたいと思っています。

- ・4年間、本当に御尽力をいただいたんですけれども、4年間の感想も含めて御意見をいただけたらと思います。

- ・大きくは三点でございますけれども、内容がかなり盛りだくさんですので、円滑に議事を進めたいと思っております。よろしく申し上げます。

- ・そうしましたら、三点のうちのみまず一点目について、O I Hシードアクセラレーションプログラムの活動状況について、これは新しい事業ということでもありますけれども、事務局から資料の説明をお願いしたいと思っております。

#### **(事務局)**

資料1「平成28年度新規事業O I Hシードアクセラレーションプログラム」に沿って説明。

#### **(松本委員長)**

- ・ありがとうございました。
- ・そうしましたら、今の実績、自己評価に対する御意見、あるいはコメントを頂戴したいと思っております。目標に対する実績という意味ではアウトプットがAでアウトカム、成果としてはSというような自己評価ということでございますけれども。

いかがですかね、吉原さん、何か感想、コメントがございましたら。

#### **(吉原委員)**

・では、私の感想を言わせていただきますと、これ、シードアクセラレーションプログラムですけれども、大変よくできていると思います。

・国の交付金を引き出して、内容についても、例えば、第2期の参加ベンチャーが半分、大阪市以外ということで、大阪市を越えたところで名前が広がっているということもよく反映された参加ベンチャーで、内容がメンタリングやブートキャンプや合宿、それから資金調達なんかを考えても、大変いいプログレスをされていると思います。

・後ほど出るでしょうけれども、自己評価は大阪市の方々は大変コンサバティブな評価をされていますが、アウトプットも多分、Aプラスとかですね。アウトカムについては、当然、Sだと思います。だから、よくやっていらっしゃると思うのが私の感想です。以上です。

#### (松本委員長)

・はい。ありがとうございました。私の感想としては非常にしっかりとしたプログラムをされているなという印象ですね。

・これ、国の支援、補助金という意味で、しっかりとやっぱり報告しなきゃいけないということもあるんですけども、それよりも、やはりここを、こういうベンチャーを押し出す拠点にしようという意思がしっかりプログラムにあらわれているんじゃないかなというふうに思っております、評価そのものも吉原さんがおっしゃるように、非常に遠慮がちに大阪市さんはつけられたんですけども、当然、成果としてはSですし、事業の量も数もすごい事業かなというふうに思っております。

・巻き込みもいろいろな、多様なパートナーを巻き込んでいるという意味ではもう少し、A以上かなという気はしますけれども、まあ、そこはまた、いろいろ議論をしたいと思いたすけれども。

・一点だけ、これは別にこの事業そのものの評価ではないと思うのですが、まだやっぱり日本では大企業、大手企業側の準備といいますかね、大手企業の中に、なかなかイノベーションのエコシステムができていないのと、やっぱり新規事業をやる人も非常に、現在の大手企業は非常に、なかなか厳しいし。事業がなかなか生み出せないという局面を迎える中で、大手企業も非常に参加いただいているんですけども。

・逆に、多分、大手企業側の問題だと、私は認識はしているのですが、思った以上には大手企業さん側の満足度が低いという、これ、大阪市さんとしては理由としてはどういう、記載はしているのですが、もうちょっと踏み込んだところで何かコメントはござ

いますかね。

#### (事務局)

・非常に満足、それから、どちらかといえば満足というところで75%とお伝えいたしましたが、今、委員長からの御指摘にもありましたように、どちらかといえば満足という意見が50%でございました。

・やはり、大企業のほうは100社ということで多様な、商社から鉄道会社まで、いろいろな事業者が参画いただいているのですけれども、そこがいろいろ、事業のシナジーを満たそうと思う対象としまして、ベンチャーのほうは20社ということになりますので、一つは、確率的には、やはり、ちょっと、どうしても自分の会社にあったベンチャーを見つけるという意味では確率的にはちょっと低いというところもあったのかなと。

・そういった中で、いろいろ交流会なんかの中で、いろいろな可能性を見出そうということで努力をしているのですけれども、もちろん、その中で思いがけない発見があったというようなこともあるようですけれども、おおむねは、やはり参加してみたけれども、ちゃんとした連携というところに至ってない、そういうところが原因なのかなと考えております。

#### (松本委員長)

・これはこの事業というよりはこれから、この拠点、大阪イノベーションハブが本当にオープンイノベーションのしっかりとした拠点となるためには大手企業側に対してどういう支援ができるかというのも非常に大きいと思います。

・今、大手企業側が空前のオープンイノベーションブームなんですけれども、私自身は非常に危うい状況かなと思っておりまして、なかなか新しい事業を生み出せない、出口もできない、課題すら策定できないというところが非常に多いんです。

・経産省のイノベーション100のように、まずはイノベティブな大手企業を100社つくろうという動きがあるのは、やはり日本の大手企業にイノベーションが起こっていないという懸念を経産省さんが考えておられるというところかと思っておりますけれども、そういう支援をする一般社団法人ジャパンイノベーションネットワークというのも東京で活動されておりますので、こんなところと大阪イノベーションハブが連携することによって、この辺のところの方々、従来から大阪イノベーションハブにもっと大手企業に来ていただいて、ということも常に出ておりましたので、そこが今後、来年度以降の大きな課題かなというふうに思っ

ておりますので、それは次の事業で議論をされたらいいと思いますけれども、本事業につきましては、非常にいい結果も出せるかなというふうに思います。

・吉原委員からもA、Sという評価ではありますけれども、Sはもう当然のごとくと。Aももう少しいい結果じゃないかという意見もありましたので、その辺、また評価のところで議論をさせていただきたいと思います。

吉原委員、よろしいですかね、本件に関しては。

#### (吉原委員)

・ええ。松本さん、一つだけ、大企業の満足度調査ですけども、単純に、今回、初めてポジティブのほうに73%出たというのは、別にそれを問題視する理由はないと思います。

・どちらかといえば不満というのも、どちらかといえば満足というのも、大変ニュートラルな返事なので、もちろん、そこに非常に不満であるというのが10%から20%超え出すと、大問題でしょうけれども、事務局の説明の中にはっきり出ていましたけれども、指定先のベンチャーが10社しかないときには、その10社のテクノロジーとか、いわゆるマーケットのプレゼンスでどういう将来像を目指しているのかということをお話をして、本当に興味のある会社だけを呼ぶということで、大企業同士の横のつながりというのは、また別に、違う、独立したプログラムとしてやるか追加だということで捉えたほうが焦点がぼけないと思います。以上です。

#### (松本委員長)

・ありがとうございます。そうしましたら、続きまして、議題2のほうに移らせていただくということでよろしいですかね。ほか、何か今の件に関して大阪市さんからございましたら、よろしいですかね。

・そうしましたら、続きまして、議題2の平成28年度の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価についてということと、議題3の平成25年度から平成28年度の関西イノベーションエコシステムの状況と今後の大阪イノベーションハブの活動の方向性について、まとめて事務局より資料の説明をお願いしたいと思っております。

#### (事務局)

資料2「平成28年度の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価について」及び資

料3「平成25年度～平成28年度の関西のイノベーションエコシステムの状況と今後のOIHの活動の方向性について」に沿って説明。

**(松本委員長)**

- ・ありがとうございました。まず、最初の平成28年度のOIHの活動状況と自己評価についての議論からはじめたいと思っております。
- ・議論1でもう既に議論しましたアクセラレーションプログラムの活動は一応、除いた形での本来の事業ということで、もう時間もあれですので、もう早速、吉原委員、いかがですかね、御意見ございましたら、まず、今年度、平成28年度の活動の結果評価でございますけれども。

**(吉原委員)**

- ・ありがとうございます。大変、わかりやすい説明をどうもありがとうございました。まずは、一つ一つにします。
- ・情報発信からスタートしますけれども、大変よくやってらっしゃると。別に、これ、何回も言って恐縮ですけれども、大阪市の役所の方々がやっているということを考えれば、これ、別にSでもよろしいと思うのですけれども、そういう判断はなしで、単純に目標と達成水準の話だけをして、当然、A、Aプラスでもいいのかと思います。
- ・4年もたつと、ある程度、認知度も上がってきたところで、じゃあ、一つ、一服感が出てくるかもしれませんが、勝負は、やっと今が本当にスタートラインに立ったという認識が僕は正しいと思います。
- ・この情報発信についても、差別化された価値を生む情報を発信すること。特に、大阪市の成功を見て、同じようなことを始めていらっしゃるほかの地方公共団体の方々もいらっしゃるでしょうから、大阪イノベーションハブが成さなければならないのは常に、毎年、差別化され、価値を生む情報発信を考えること。
- ・ずっと申し上げてきました成功例のケーススタディとかライブラリ化とか、今あるシーズベンチャーのデータベースのライブラリ化とかですね、ほかの地方公共団体がやっていないところ、一歩、二歩、常に先に行くということを意識されることが肝要だと思います。
- ・二番目のコミュニティ形成とかについても、海外のネットワークを見ても、またOIHを拠点にコミュニティ数の増加度合いとか、そのクオリティですよね、ベンチャーコミュニテ

イとか、Code for Osakaとか、いいクオリティのコミュニティができているということで、当然、Sだと思いますが、大阪イノベーションハブ、これ、同じようなことを言いますけれども、大阪商工会議所のAIビジネスの研究会というのも一つのあらわれで、コミュニティ形成についての技術動向に大変、敏感であるべきだと思います。常に、毎年、技術というのは進化していますから、常に、OIHが大変敏感な組織であるということ意識してほしいと思います。当然、Sで結構だと思います。

- ・プロジェクト創出についても、これ、ピッチイベントにしても、オープンイノベーションとか、シードアクセラレーションプログラムとか、ベンチャーが価値を感じるような支援に注力されているということで、アウトプットのSは当然で、アウトカムもAもしくはAプラスでよろしいんじゃないかと。

- ・ただ、一つ、何も出てないので残念だなと思うのは大学の技術シーズ。関西の方にはいっぱい大学がありますよね、研究機関もありますし、その大学の技術シーズからスタートしたプロジェクトの事業化というものも、当然、このアクセラレーションプログラムとか、ほかのイベントなんかに新たなプロジェクト創出として出てくるべきでしょうし、大学なんて一つか二つ、出だしたら、あとは雪だるま方式であれまあれま出てくる可能性が十分あると思いますので。

- ・最後にプロジェクトのショーケースですが、これ、4年目ということで、大変、サブ会場での日本予選を開催したり、協賛、連携を許可されて、対象のマーケットを広げられたり、努力されているところはよく見えるのですけれども、これ、気になるのがサブ会場で満足、やや満足というのが60%弱だということは5人中2人以上は、「これはあかんで」というような感じで評価されているということは、何かやはり、そこは問題があると思いますから、同じことを言いますが、差別化され、付加価値を感じられるようなサブ会場にぜひともしていただきたいものだと思います。

- ・それはともかくとして、アウトプットとアウトカムの数字、KPIを見ていると、Aでよろしいんじゃないかと思えます。以上です。ありがとうございます。

#### (松本委員長)

- ・ありがとうございました。少しだけ意見を。
- ・情報発信という意味では本当にこの4年間でブランド化できたと、大阪イノベーションハブというブランドができたという意味では、それは情報発信の結果だと思うのですけれども。

・どこへ行っても、私、昨年4月からほとんど拠点が東京になってしまったのですけれども、大阪イノベーションハブというのは、やっぱり、4年前に比べますと、もう圧倒的に認知度が高くなっていると。

・いろいろなイベントに行きますと、必ず吉川理事の顔を見かけるとか、そういう意味で地道な活動も含めて、それと具体的なこういう発信も含めて、非常に、そういった意味では、ブランディングといった意味では成果が非常に出ているのではないかなというふうに思います。

・あと、コミュニティ形成、連結については、いろいろ御指摘がありましたように、いろいろなところがこういう活動をやるようになったとはいうものの、やっぱり先陣を切っているという強みというのはあると思うんですね。

・だから、いろいろなやるところが出てきたとしても、必ず大阪イノベーションハブとつながっているというような、まさにハブ、拠点になれる、極めて高いチャンス、パフォーマンスをもっていると、それはやっぱり4年間の実績というのは非常に大きいので。

・ただ、できましたら、まずは大阪を強靱なネットワーク、大阪内での連携も、まず強靱にしながら、関西、あるいは日本、あるいはグローバルに広げていくということで、ちょっと記載されているのですけれども、大阪商工会議所さんが、まさに新しいビジョン、3年間のビジョンを打ち出される中でオープンイノベーションというのを前面に出されておられますし、オープンイノベーションリンクとか、つながるという意味でのリンクというのも強調されておりますので、そういったところとの強靱な連携を、まずしっかりとやりながら、神戸、京都とも連携していく。

・それと、私、ちょっと神戸でかかわらせていただいているリサーチコンプレックスというのはまさにイノベーションの拠点づくりなんですけれども、神戸だけではなくて、京阪奈、川崎もですね、今度、採択されましたので、川崎は実は事業家リーダーからいろいろな意見交換をしたいという声がかかっておりますので、ああいうところと大阪がつながると。もう日本にいろいろな、同じようなイノベーション拠点ができるんですけれども、必ず大阪イノベーションハブとつながっているという、そういうことになれば、大阪がまさに日本のイノベーションの拠点という位置づけに、ますますなっていくんじゃないかなと思っています。

・プロジェクト創出、プロジェクトのショーケースにつきましては、大分、こういうベンチャー支援という経産省とか、内閣府の取り組みというのは日本でも普及しておりますけれども、やっぱりこの取り組みというのが結構注目されていますし、最近では経産省とNEDO

のオープンイノベーション協議会が、オープンイノベーション・ベンチャー創造協議会に変わったらしいですけれども。

・だから、ますます、このベンチャー支援というのが国を挙げて、やっぱりかなり力を入れる中で、実績及びそれなりのブランドをもっているこの大阪の拠点というのが、ますます注目されるはずなのですよね。

・それにこたえられる体制づくりみたいなものも、ぜひ。AIの話も出ていましたけれども、例えば、今、AIをもちろん、本格的にいろいろ取り込むというのも大事ですけれども、その次、何が起こるかというのを、やっぱりリサーチしながら、20年後、30年後に起こるであろう、新しい波を早くキャッチして、難しいのですけれども、それは非常に大事なかなというふうに思っております。

・神戸さんも、ルワンダと提携とかいうことを発表もされておりますけれども、私はモロッコもおもしろいんじゃないかなと。半分冗談、半分あれですけれども、そういう新しい取り組みをどこよりも早くやっていくことが非常に大事かと。

・全体としては、もう、まさに全部Sでもいいような感じではありますけれども、来年度にちょっと向けた、積み残しも含めて、多分、Aにされているんじゃないかなというふうに思っておりますけれども。

・何よりも、やはり冒頭、申し上げましたブランド化に成功しているというのが一番大きいかなと、4年間が一番大きい成果かなと思っております。

・何か、ほか、大阪市さんから。あと、何か。吉原委員、コメント、もしございましたら。

#### (吉原委員)

・いや、私のほうは結構です。ありがとうございます。

#### (事務局)

・一つだけ補足だけさせていただきたいのですが、先ほど吉原委員から御指摘いただきました国際会議、サブ会場の満足度が60%ということで、確かに、我々としても課題かなと考えておりました。

・この要因の一つで我々が分析しておりますのは、今回、一つのサブ会場の中で展示ブースがあって、それから、ミニステージのようなところでコンテストをやって、というようなところで、ちょっと会場のキャパシティの中でいろいろな事業が並行して走っております、

結構、そういう意味でにぎやかであったのはよかったんですが、ちょっと展示ブースのほうでの説明が聞きづらいとか、それぞれの中でちょっと聞きづらさとか、そういうのがあったというふうに聞いておりますので、そういったところが一つの原因なのかなというふうに分析をしております。

- ・こういったところについても改善はしていきたいとは考えておるのですが、キャパシティの問題等もございまして、ちょっと検討していこうと考えているところでございます。
- ・それから、今回、産学連携の案件が少ないというようなところもございました。先ほどちょっと御紹介をしそびれていたのですが、アクセラレーションプログラムのほうでは国のNICT発の技術を活用したプロジェクトの支援というのを今回、1件、取り組んでおります。ここは我々も意識して、来年度以降、それをふやしていきたいというふうに考えております。
- ・それから、今回、このイノベーションハブの運営と、それからアクセラレーションプログラム、両方とも、既に御存じかと思いますが、大阪市が民間の事業者等に委託をしまして、連携して取り組んでいる内容でございまして、我々としましてはいいパートナーとめぐり会えて、一緒にこの事業を1年間、進めてこれたなというふうに考えております。そのたまものかなというふうに考えております。以上でございます。

#### (吉原委員)

- ・どうもありがとうございます。よくわかりました。

#### (松本委員長)

- ・そうしましたら、この結果を踏まえて、ということになるのですかね、来年度以降の、今後、どういう役割を担っていくのかという、このビジョンの一枚物の御説明がありましたけれども、これについてのコメントをいただくということでもよろしいですかね。
- ・そうしましたら、最後の御説明にありました資料3ですね、開設からエコシステムができてきましたよ、という全体の話、4年間の全体の振り返りと今後どうするのかということも御意見いただくということでもよろしいですかね。
- ・資料3、最後、御説明がございましたけれども、吉原委員、何かコメントとかございましたらお願いしたいと思います。

#### (吉原委員)

・ありがとうございます。この資料3、大変よくまとまっていると思います。関西、大阪のイノベーションエコシステムのダイナミックな動きが事例とともに示されているので、この4年間、このパワーポイントのスライドが出るようになったということだけでも大変、大きな進展だと思います。

・その中で、これは吉川さんあたりはまたかと言うかもしれませんが、4年間、ずっと申し上げていましたけれども、大阪イノベーションハブの発展的な、次のレベルの姿というものに対して、僕はもう少し明確さが必要だと思います。

・大阪市が、もちろんですね、未来永劫、3億円とかいう大きな金額を苦しい財政枠から拠出し続けるというのであれば、今はいろいろな形で今のプログラムの高度化を図るのが姿なのですけれども、本当にそれでいいのかというところで、今、説明のあったプライベートセクターのパートナーシップ、もしくは国からの支援、それから日本で可能なのかどうか知りませんが、大きなエンドースメントの徹底とか、いろいろな形でプログラムのビジネスモデルがどうあるべきなのかということを実際に自治体でディスカッションする、もちろん、それがこの評議会の役割でないのかもしれませんが、そういう必要があるという気持ちがありましたというのが一点目です。

・それにかかわって、毎回のことなんですけれども、このプログラム、大阪イノベーションハブにかかわる財務情報の透明感が必要だと。例えば、パブリックとプライベートのパートナーシップに移行するなり、何らかの形の公益の財団法人になるのか、もしくはこのまま大阪市の傘下のプログラムで残るのかは別にして、常に、やはり財務諸表については透明感を豊かにしておく必要があるというのが二点目です。

・三つ目はですね、大企業等ということで、大変立派な会社の名前がいろいろなところに出ていますが、これは常に巻き込む企業の質も量も高め続け、なおかつ、大学のシーズに基づくベンチャー支援のための実質的なプレイヤーを掌握し、それからフォーカスを高めるということが、これからもっと肝要になってくるんじゃないかと。

・先ほど既にお話したライブラリですよ。成功したケーススタディとか、例えば、今あるシードベンチャーのデータベースのライブラリ化とか、要はお仕事をしている中で知識集積、それと、その集積された知識をどのようにして効果的にシェアしていくかということが肝要になってくると。

・最後に、もう一度、強調したいことは常にテクノロジーのトレンドに敏感であってほしいと。前よりも当然、そうでしょうし、その先に例えば、IoTとか、吉川さんが最初におつ

しゃっていましたけれども、もちろんオートノマス・ドライビングとか、センサーのアルゴリズムの世界になりつつあるわけですから、オートノマス・ドライビングについてはいろいろな形で技術のトレンドにセンシティブに、常に進化している大阪イノベーションハブを、ぜひとも、これからもつくり続けていっていただきたいと思います。

以上です。どうもありがとうございます。

#### (松本委員長)

・ありがとうございます。大変、貴重な御意見を賜りまして、本当にありがとうございます。

この資料3というのはどちらかというと、現状のネットワークをベースに描いているということでございますけれども、まだまだ、例えば、ファンドとは非常に連携はされているのですけれども、例えば、直接銀行、商社でやっぱり、大阪であれば、顔が見えるのがあると思うんですね。いろいろそういう顔がここに集まってくるというのが非常にわかりやすいと思うんですね。

・大学とか、起業家とか、大企業とか、ベンチャーキャピタルとかいうようなフレームの中でたくさんの、本当に、そういうスタープレイヤー的な顔が大阪イノベーションハブに集まっているというようなイメージが非常にいいんじゃないかなと思っています。

・大学も本当に、関西でイノベーションを起こそうという大学が非常に多いし、大阪工業大学さんなんかは梅田にすごいビルを建てておられますけれども。あと、ちょっと大阪市からは離れるのですけれども、大阪大学さんが今度、オープンイノベーション教育研究センターというのをつくられて、新しい取り組みもやっておられますし、こういうイノベーションを先駆的にやろうという大学とどうつながっていくかということも非常に大事かと思います。

・やっぱり、こういうイノベーションハブを成功させるためには二つあると思うんですね。一つは、シーズプッシュ型というのは、なかなかうまく行かないとはいうものの、やっぱり革新的な研究シーズに基づいて、ビジネスモデルを議論するというのも非常に、一方で大事だと思いますね、ここへ来て。

・日本の企業が出口、出口って言っている間に、シーズ起点というのが取り残されているような気がしますので、そういう多様なシーズがどこに存在するのかという情報が大阪イノベーションハブに来ればわかるみたいな、シーズ間のネットワークの拠点にもならなきゃいけない。

・先ほどの話で、大企業のメンターの方々の満足度、あれは別に問題視する必要はないとい

う御意見です。私もそう思うのですけれども、ニーズプル型の、ですから、大企業が本当に何をしようとしているかという本気のニーズ情報、ニーズがこの大阪イノベーションハブに集まるという、逆にニーズプル型の取り組みというのも大事だと思いますね。本気のニーズ、それが大阪、関西の大手企業のニーズだけではなくて、グローバルな、海外も含めたニーズがここに集まる、本気のニーズが集まる。シーズとニーズがそこでぶつかり合うような場みたいなものが形成できれば非常にいいなと。

- ・少し小規模ではありますがけれども、例えば、さいたま市さんなんかはニーズプル型のマッチングをやられていますし、それはさいたまに集まるシーズに合うニーズを世界からあそこへ集めてくることによって、あそこのマッチング率というのは驚異的な、実はヒット率なんです。

- ・この7月には大田区さんが同じようなニーズプル型のマッチング会をやる。それは大田区がもっている強みに合うニーズをもっている大企業を国内外から大田区に集めてきてマッチングをやることによって、ヒット率を上げようという計画をもたれておりますし、そういう形がこれからのトレンドかなと。

- ・それで、大田区とかさいたま市さんはちょっとローカルなところなんで、ローカルな取り組みではありますがけれども、さいたま市さんに国内外50の大企業があそこにニーズをもち込んでいるんですね、さいたま市さんのBIZ SAITAMA マッチングというのは。

- ・そういうふうな、大阪であれば、もっとシーズも多様化していますので、例えば、ここで起業しようというベンチャーに合う、ベンチャーに興味を持つニーズを世界からそこに集めるとヒット率といいますかね、マッチング率は飛躍的に上がると思いますので、シーズをベースとして、そのシーズにある本気のニーズプルを持ち込めるような場というのがこれから本当にオープンイノベーションが成功するかどうか、かかっているんじゃないかなというふうに思っております。

- ・そういう拠点をつくりませんか、という話を内閣府さんとか、いろいろなところに、いろいろなところで、私、しゃべっているものですから、中央の方々も非常に興味をもっていて、まずは東京だけじゃなくて、関西にもそういうグローバルオープンイノベーション拠点みたいなものをつくりましょうという仕掛けをやっていまして、今度、大阪商工会議所さんと一緒に提言みたいなものをやろうということを計画していますので、ぜひ、その中核に実績のある大阪イノベーションハブという、実績がないと、あんな絵というのは、本当に説得力がありませんので、大阪イノベーションハブの実績がそこに、提言の中にちゃんと入

ってれば、非常に説得力があると思いますので、その辺も含めて、ぜひ、大商さんとも連携しながら、国、行政に提言していくというような取り組みも非常に重要なことだと思っております。

・大学や起業家やベンチャーの顔が見える、大企業もオープンイノベーションの施設をつくる場所が関西に非常にふえてきておりますし。そういう「顔」がたくさん見えてくると、やっぱりブランディングというのは維持されるだけではなくて、より向上すると思っておりますので、ぜひ、そういう取り組みを継続して続けていくだけではなくて、いろいろなところがやってきたので、大きく引き離すという、別に競争しているわけではないのですけれども、やっぱり大きくギャップを埋めるというのがオープンイノベーションの、私は基本的な考え方で、ギャップを埋めるオープンイノベーションなんですけれども、やっぱり大きく埋めるという、大きくジャンプするということができる基盤が、強靱な基盤が私は4年間でできたんじゃないかなというふうに思っておりますので、私はもう、この促進評議会としては今日で終わりですけれども、継続してぜひ、メンターとか、そういう形では、ぜひ、今後も全面協力させていただけると思っておりますので。それと、本業のナインシグマとしては全面協力を既にさせていただいておりますので、引き続き、またよろしく申し上げます。何か、コメントとか、大阪市さん。

#### (事務局)

・じゃあ、私のほうからコメントというか、思ったことと、まああれなんですけれども、申し上げますと、吉原さんのほうからは効果的なシェアというのが非常に大事だという言葉いただきました。そして、もう一つは技術トレンドに敏感な施策を、という言葉もいただきました。

・また、松本委員のほうからはシーズブルのニーズを、シーズに合ったニーズをプルして来れる体制を本当にできるかどうかでオープンイノベーションが進むかどうかという言葉もいただきました。

・本当に、これからの、次の時代における指針をいただいたのかなというふうに思っております。

・ちなみに、私たちが今、考えている中で効果的なシェアという意味では、いわゆるネットワークインフラをつくるということを街全体でつくりたいということで、今までやってきたと思っております。本当に、そのハブという意味合いがこの4年間で我々自身もわかってき

たような気がいたします。

- ・経済政策の場合は従来はほとんど中小企業1社に対する個別的な支援というのが多かったわけで、そういった意味で街全体にあるリソースをつなげることによって、いわゆる回転率を上げるというような施策というのはなかったわけです。

- ・そういった意味でイノベーションハブが主張していること、街全体の資源をつなげることによって効率が上がる、回転率が上がるんだ、これが新しい時代のイノベーションの必要条件だという主張はこれからもずっと主張していかなければいけないと思っております。

- ・ややもすれば、そういうネットワークインフラというのは効果が見えにくいものがございますから、そういった意味で我々としてはこの4年間、主張し続けてきたと思っておりますが、引き続き、これは皆さんの御理解をいただきながら主張していきたいと考えています。

- ・ちなみに、そういうネットワークインフラのKPIとしましては、プロジェクトの創出件数というKPIを設けておるんですけれども、これはいわゆるイノベーションエコシステムのKPIそのものであって、大企業であるとか、大学とのつながりをも把握したようなイノベーションエコシステム、大きな意味でのイノベーションエコシステムにはなっていないという課題感をもっております。

- ・したがいまして、このネットワークインフラをつくるということが経済施策の一つの柱なんだということを、我々としてはイノベーションエコシステムをつくるというミッションの中で表現していこうということで、今までやってまいりました。

- ・もう一つは我々がイノベーションエコシステムをつくったときの本当のKPIって一体何なのかといいますと、そういった意味でのピッチイベントが200日、300日はある街をつくりたいというふうに考えておまして、現在のアントレプレナー取引所というのをこの大阪につくりたいと考えているわけです。

- ・まさに、ベンチャーへの投資、あるいはプロジェクトへの投資というのはリアルに会わなければならないということを考えておまして、そういう意味では30分以内でないと投資はしないというような格言もあるやに聞いておりますけれども、やはり集まる場所がなければ、投資はできないというふうにちょっと感じておまして、そういう意味では現代の取引所をどうしても、この集まりやすいうめきたにつくりたいというふうなつもりで今までやってきておりますし、今後のKPIとしては200日ピッチが行われる街、大阪をつくれるかどうか、そこかなというふうに考えております。

- ・ピッチの中に当然、先ほど松本委員が言われたニーズシーズマッチング会なんかも入って

くるかと思っております。

・そういった中で、200日をやっていく上において、出会った課題というのは何かという  
と、出る人おれへんやん、みたいなことなんです。

・今、ピッチイベントは大体、50件ぐらいやらさせてもらっているのですがけれども、かなり  
いっぱいいっぱい、質と量という意味での掛け算の積のところではまだまだレベルが低い  
というふうに考えております。

・そういう意味ではイノベーション文化、いわゆる起業家を生み出す文化というのがまだまだ  
弱いと考えておまして、その辺の土壌の耕しというのが非常に重要なことというふうに考  
えておる次第です。

・そういうところで、土壌を耕すとか、マインドセットに働きかけるということでは、これ  
はまだしばらく行政がやるべき仕事ではないだろうかと考えている次第です。

・それから、効果的なシェアという点におきまして、話を戻しますと、企業であるとか、大  
学さんがこの街全体にオープンイノベーションの拠点を持ち始められましたので、かなりそ  
れができるようになってきたのではないだろうかと考えております。

・したがいまして、それはどンドンどンドン、そういう形でやっていただくということは支  
援していきますけれども、行政としてはより高度なオープンイノベーション、ネットワーク  
インフラをつくっていく。

・例えば、大商さんとの連携であるとか、大学との連携であるとか、あるいは関西経済同友  
会さんとの連携であるとか、これは吉原委員から以前より経済界を巻き込めというふうな御  
指示をいただいておりますことが徐々に実を結び始めているのかなと思っております。

・そういう意味での究極の結合力という意味では大阪イノベーションハブ、仕事をやってき  
たかなと思っておるのですがけれども、次に、これはかなり民間でできるようになってきたの  
であれば、次に我々が残っている結合力は国境を越える結合力であって、グローバル展開だ  
と考えております。

・幸い、関西、大阪には領事館が集積しておまして、そういった領事館との出会いという  
ことも非常に重要かと考えております。

・そういう意味ではグローバルへの展開を次年度以降はより強化していかなければならぬ  
と考えております。

・そういう意味で、グローバル等という軸へのシフト、そして、ネットワーキングインフラ  
をより意味ある形、有機的なインフラを街全体という意味での文脈でやっていくという意味

での展開、これが、この2軸が非常に重要かと思っております。

- ・そして、最終的にはピッチが行われる場所、いわゆる集積、結合させて、取引する場所がこの街につくられてくるという状態をつくりたい。

- ・そこまで来るまで、まだまだ官としての役割はあるのではないだろうかというふうに考えております。

- ・ただ、一方では民でできることは民で、ということは当然、考えておまして、そういう意味ではいわゆる実行委員会形式であるとか、事業の切り離しということは、当然、考えていって、コスト削減というところには考えていきたいと思っておりますけれども、官でなければできないことというのもやっぱりあるなというふうに感じております。

- ・そういった意味で、しばらくこういった方向でさせていただければありがたいなと思っておりますけれども、評議員の皆さんのコメントをいただきたいと思っております。

#### (松本委員長)

- ・まずは、吉原委員、いかがですかね。コメントを。

#### (吉原委員)

- ・ありがとうございます。今の御説明、大変、論理的でわかりやすく、目指す方向性としては説明を聞いた人たちは納得できるものが多いと思います。

- ・その中で、官ができること、民ができることという、別にそこで、私はぜひとも、もっとプライベートパートナー、パブリックのパートナーシップを発展させた形で進めていただきたいと。

- ・というのは、別に官でやるほうがニュートラルだというブランドでアプローチしやすいとか、実行しやすいことも山ほどあるでしょうし、民が入ったほうが本当の意味でビジネスという環境の中の本当のネットワークを使えるという部分、その現実もあるわけですし、グローバルという面からも官ができるグローバルネットワークと、民間がもっている、既にそこで利益を獲得し、将来の技術を生み出し続けているネットワークというものがあるわけですから、パートナーシップですよ。

- ・ですから、今、おっしゃったグローバルとかつなげる力、結合、まちづくりするというのは大変いい方向に行く。その中でどのようにしてバランスをとっていくかというのは、一体、これ、評議会で決めることなのか、それとも別のレベルで決めることかもしれませんけれど

も、それは当然、議論すべきことだと思います。

・ですから、私は当然、あるべき方向はもっと民間との協業というものがふえていき、その中で大阪イノベーションハブが当然、進化するということを期待しております。

・ただ、官のほうにも大きな期待をしているのは、今、くしくもまちづくりという話が出ましたけれども、10年、20年ぐらいのスパンで政府がやるべきことの中に若い人たちのマインドセットの変革。それは別に、今、若い人というのは20代の人をいっているのではなくて、当然、大学生もそうなんでしょうけれども、例えば、今、中学生、高校生あたりに、受験勉強をしていい成績をとっていい大学へ行こうということで頑張っていっしょするのは、それはそれでよろしいのでしょうか、マインドセットして、いわゆるアントレプレナーになるということも成功の一つの姿だということを身近に考えられるようなアウトリーチプログラムも当然あって、そこに僕は大阪イノベーションハブの卒業生が山ほど出て行って、今、私たちは大阪イノベーションハブというところに支援をもらって起業し、そこで成功し、このような人生の充実感を味わっているというような話を小学生、中学生、高校生レベルで計画的に心のどこかにこういう形の幸せ、成功もあるんだということを感じるべく、そういうプログラムづくりというのは官がやるべきことだと思います。以上です。ありがとうございます。

#### (松本委員長)

・ありがとうございます。大変わかりやすい吉原委員の御説明で、ぜひ、そういう方向に引き続き大阪イノベーションハブが進化することを大変、私だけじゃなくて、多様なパートナーも期待しているかと思います。

・私はどうしてもナインシグマという立場があるので、どうしてもベンチャーピッチを否定派だと世の中の方には思われているのですけれども、決してそうではなくて、ベンチャーピッチ、非常に大事だと思います。

・ナインシグマのプログラムにまさにアウトリーチというプログラムがございまして、これは大手企業から、すみません、ナインシグマは大手企業がクライアントなので、どうしても大手企業視点でしか話ができないので、申しわけないのですけれども、大手企業から、お題をいただいて、新規事業でやりたいときに自動車×AIとか、健康×IoT×フィルムとか、お題をいただいて、そのお題に合った世界中のそれに合った、ニーズに合ったベンチャーを世界中から探してきて、日本の大手企業とつなぐという依頼が非常に多くて、手間がかかっ

て、そんなに利益は出ないんですけれども、ぜひ、ピッチの大拠点になっていただきたいと思うんですけれども、アウトリーチ的なプログラムとか、いろいろな試行を、私はすべきだとは思うのですよね。あるいはニーズプル型のベンチャーピッチ、ニーズに合ったベンチャーを集めるというようなことをやらないと、なかなか数だけが積み上がっていくということになりますので、どうしても、私は民間のそういう、つなぐことをビジネスにしている会社なので、つなげないと事業が継続できませんので、やっぱりヒット率、つなぐ率というのをナインシグマの場合はグローバル探索の場合、やっぱり9割以上を必ずつなげるというヒット率を維持しないと、事業としてやっていけないので、そういう、つなぐ民間企業をいかにイノベーションハブの中に組み込むかというのも、多分、大きな課題かと。

- ・つまりは国がやるべきこと、行政がやるべきことと、民間ができることと、しっかり、やっぱり議論をされて、そういう民間でそういう長けたところはどこなのかというところ、ナインシグマと言っているわけではなくて、もっといろいろあると思うので、そういったところをパートナーシップをうまく結ばれるということが非常に重要ななと思っています。

- ・今や大企業は新規事業を生み出せないというジレンマがありますので、ベンチャーや起業家とかのアイデアの発想をうまく取り込むことによって、一緒に新しい事業を生み出したいという意欲は相当強いので、その意欲と本当に斬新なアイデア、発想をもっている起業家をうまくつなぐことによって、ここから新しい事業がどんどん生み出せるような場を、ぜひ、つくって行っていただきたい。

- ・中身をどうするかというのは、次の委員の方々が議論されるでしょうけれども、いろいろな局面で、また意見交換できるような場が継続してできればなというふうに思っております。

- ・ちょっとナインシグマの立場を離れて、こういうイノベーションに長らくかかわってききましたので、いろいろなところで、またかかわらせていただきたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

- ・時間もあれなんで。

- ・私、後半の2年半、突然校条委員長の後を引き継いで、委員長をやったのですが、ちょっと、役不足で、しかも、私も転職という局面を1年前に迎えたので、申しわけないところもあったんですけれども、幸い、転職したところが、まさにオープンイノベーションの支援機関で、グーグルでオープンイノベーションを検索されると、ウィキペディアの次に出てくるぐらい、オープンイノベーションでは非常に有名な会社ですので、そういう、ナインシグマの取り組みなんかもうまく、こういう行政さんとパートナーシップを結ぶというところ

ろでもつなぐ役割をしたいなと思っております。

- ・グローバルという話をされましたけれども、ナインシグマは昔から、実はグローバル探索だけが得意みたいな印象が非常に強いのですけれども。

- ・実際、そういう、単に探索事業だけではなくて、一橋大さんと連携してグローバルオープンイノベーションコンソーシアムという事業をずっと継続してやっています、今期も進めています、ロシュとか、コーニングとか、4月はネスレの、まさにオープンイノベーション推進リーダー、ヴァイスプレジデントを日本に呼んで、日本の企業の方々と意見交換をする場を東京でやっているのですけれども、こういうのはぜひ、大阪でこそ、私はやるべきじゃないかなというふうに思っています。

- ・4月のネスレはたまたま、SMBCさんと提携して、ちょっと広げてイベント的にやろうかなと思っておりますし、せっかく海外から東京に来られるので、東京のついでと言うと、大阪市さんに怒られますけれども、まず、大阪に来ていただいてから、東京に行っていたくというようなことを来期は検討したいと思います。

- ・大体、2カ月に一人ぐらい、グローバルな企業を日本にナインシグマは呼んでおりますので、まず大阪に来ていただいてから東京に、というようなことも、またちょっと、いろいろ議論したいと思っております。

- ・いろいろ、不届き、余りなれていなくて、委員の皆様には大変御迷惑をかけましたけれども、議事運営に、吉原さん初め、委員の方々に本当に御協力いただきまして、ありがとうございました。

- ・吉原さん、本当にありがとうございました。

#### **(吉原委員)**

- ・こちらこそ、ありがとうございます。OIHの皆さん、吉川さん初め、本当に4年間、ありがとうございました。

- ・松本委員長もですけれども、皆さんのますますの御活躍を期待しておりますので。どうもありがとうございました。

#### **(全員)**

- ・ありがとうございました。

**(事務局)**

・これからもぜひ、評議員OBとして、OIHの育成に御指導いただきますよう、また、改めてお願いに上がりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。また、OIHにひょろっと寄っていただいて、仕事もしていただければなと思ったりもするのですけれども、よろしくお願いいたします。

**(吉原委員)**

・はい。どうもありがとうございます。

**(全員)**

・ありがとうございました。

**(吉原委員)**

・もう失礼します。

**(松本委員長)**

・そうでしたら、事務連絡とか、いいですか。

**(事務局)**

・長時間の会議、御参加ありがとうございました。また、この4年間、大変お世話になり、ありがとうございました。

・事務連絡でございますけれども、冒頭申し上げましたように、28年度の評価につきましては、後日、3月末時点で確定した数値、本日いただきました御意見及び本日御欠席の藤沢委員と田路委員の御意見も取りまとめたものを御送付差し上げますので、御確認いただきまして、疑義、もしくは必要であれば、追加のコメント等、お願いできればと思います。

・その後、松本委員長に最終的な取りまとめを行っていただきまして、最終的な評価を確定いたします。

・取りまとめた評価につきましては、5月中をめどに各委員の皆様へ書面にて御報告いたしますので、よろしくお願いいたします。

・以上でございます。これまでの御尽力、心から感謝を申し上げます。理事からもございま

したように、どうか、今後とも引き続き、本施策に対しまして御支援、御協力いただきますよう、よろしく願いいたします。ありがとうございました。